

# 化石館だより

## コラム

### 太い茎をもつウミユリの謎

金生山を構成している赤坂石灰岩からは2億5千万年前のサンゴ礁に生息していた様々な生物の化石が産出します。代表的な化石は原生動物の有孔虫、フズリナ類で約50種程が報告されています。その他に、サンゴなどの腔腸動物、ウミユリやウニなどの棘皮動物、腹足類（巻貝）、斧足類（二枚貝）、頭足類（オウムガイ）などの軟体動物、三葉虫や貝形虫などの節足動物など多種多様です。大きさも様々で、1mmに満たないものから1mを優に超えるものまであります。こうした金生山の化石の中には、他の産地と比較して、2倍も3倍も大きなものが見つかることが知られています。ウミユリもその一つで、他に類を見ない太い茎部の化石が産出しています。

ウミユリは、その名前から植物と思われがちですが、ウニやヒトデなどと同じ棘皮動物の仲間です。触手を花のように広げ、浮遊物を捕えて食べているのです。ウミユリは現在も生存種があり、その姿はユリの花に良く似ています。外国では体全体の形がきれいに保存された化石が見つっていますが、その姿は現生のウミユリとそっくりです。金生山のウミユリ化石は、茎の部分や触手の部分が小さく切断され、ばらばらの状態で見つかります。今のところ生息時の姿を保存した化石は見つかっていないので、金生山のウミユリの形態は良くわかりません。赤坂石灰岩の下部層から産出したウミユリの中で、当館が所有する最大のもは、茎の直径が8cmあります。このウミユリはどのような姿をして、どれくらいの大きさがあったのでしょうか、そしてどのような生活をしていたのでしょうか。



ドイツのホルツマーデンでは、非常に大型で保存状態の良い *Seirocrinus* と *Pentacrinus* というジュラ紀のウミユリが発見されています。特に、*Seirocrinus* では茎部の長さが 18m もある化石が見つっています。茎の太さについてのデータはありませんが、標本写真から 2～3 cm 程度と思われます。これら 2 属は流木などに付着し、海面から垂れ下がるような姿勢をして、外洋を漂いながら成長しました。そして、付着した流木が腐敗したり、成長に伴って自重が増加したりしたため海底に落下して化石になったのです。長さの割に茎が細いのは、萼部を持ち上げ体を支える必要が無かったからだと思われます。

Record China という HP (<http://www.recordchina.co.jp/group.php?groupid=4590>) には、「世界最大のウミユリ綱化石発見」という記事が写真入りで掲載されています。これは 2 億 2 千万年前、三畳紀のウミユリだそうです。種名やサイズについて詳しいデータは記載されていません。細くて長い茎部の様子から、*Seirocrinus* と同様に流木等に付着した仲間のようです。

金生山のウミユリは、茎の太さが 8 cm もありますから、自重が大きく漂流する生活には不向きのように思われます。むしろ、現生の *Metacrinus* (トリノアシ属) などと同様に、海底に固着し萼部を高く持ち上げていたと思われます。現生の海底に固着するウミユリは、茎部の長さが 1 m 以下です。また、茎の太さは 5 mm 程度で 1 cm もありません。茎の直径 8 cm の金生山のウミユリは、海底に固着するタイプとしては、最大のウミユリだったかもしれないのです。



## お知らせ



### 金生山化石研究会 入会のご案内

初めての方でもかまいません。一緒に化石の学習をしましょう！

#### 活動

- ・金生山の化石、地質、地史等に関する研究・調査、及び市民への普及  
**大垣市の委託で 赤坂石灰岩最上部層を調査しています。**
- ・化石や地質に関する学習会、講演会、見学会、採集会の開催
- ・金生山化石館の活動支援（自然講座・標本整理等）

#### 例会

毎月第 1 土曜日 午後 1 時半から大垣市図書館会議室にて（変更有）

#### 会費

年間 2 0 0 0 円

#### 問い合わせ

金生山化石館へ ☎ (0584) 71-0950

問い合わせ： 大垣市金生山化石館 電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)

Email [kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp)